

12・1総評青年協集会

動労千葉青年部堂々と闘「抜く」!

※※※※※

全国の動労組合員のみならず。一月一日、東京・明治公園で開催された総評青年協集会に、動労千葉は全支部からの一五〇名の隊列をもって、千葉県労連青年協の一翼を担って参加し、関東各県評青年協からの六千余の青年労働者とともに、終始戦闘的に集会・デモをもちこたえました。

ピエロを演じた「動労青年部」と革マル派

4・11総評青年協集会に、千葉県労連青年協の一員として参加しようとした動労千葉青年部に対し、錦糸町駅ホームへ弁護士まで引き連れた四百名の部隊で、駅当局に対しては「列車が止まっても動労本部が責任をもつ」と、乗客の面前であらんと限りの暴力をもって襲いかかり、旗やヘルメットを強奪し、多くの動労千葉青年部員を負傷させた「本部」反動暴力分子は、今回も、錦糸町駅や東京駅に部隊を引きまわし、動労千葉青年部が総評青年協集会に結集することを阻止しようとしてヤツキとなって策動しました。

しかし、動労千葉青年部がこれらの策動をはねのけて、鉄輪旗・横断幕を高々とかけ、かけ声も高く、会場前方の入口から一五〇名の隊列で堂々と明治公園に登場するや、千葉県労連青年協をはじめ、多くの戦闘的若年労働者は動労千葉青年部を共感の拍手をもって迎え入れるという画期的な事態がつくり出されたのです。

あわてた「本部」反動集団は青木書記長や中執を先頭に立てて「動労千葉を排除してくれ」と筋ちがいの申し入れをしましたが、問題にすらされず軽く一蹴され、すっかりしょげ返っていました。動労千葉を包み込む会場のふん囲気に圧倒されてしまった彼らは、やっと思いで学生革マル部隊を使って集会破壊のピラミキと称して、参加者へのテロをふるうという暴力路線をあらわし、会場のあちこちで厳しく糾弾され、集会議長団からも「革マル派は出て行け」と正式に通告されるに至りました。全く手も足も出せなかった革マル学生部隊は、最後に口惜まぎれにデモに突進しようとする千葉県労連青年協部隊に向かって、数箇の生タマゴを投げつけ、激しい怒りの前に、入組みにまぎれて逃げ出すというピエロを演ずる有様でした。

世間に通用しない「水本」「安定宣言」

動労千葉青年部が「三里塚二期工事阻止・三万人人体制攻撃粉碎、労働運動の戦闘的再生」の主張を横断幕にかかげて堂々と闘い抜いたのに対し、各県評の仲間から嫌われ者にされているが故に、正式指示にある「各県評ごとの横割り動員」と

79129
No. 全国版41

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二五八・九・（公衆電話）二七二〇七）

突ざりこまれた「動労青年部」の破産!

れない、わずか四五〇名の「動労青年部」は会場内で横断幕ひとつ出すこともできぬままいたのです。ここに、総評青年労働者六千の眼前に、動労千葉の闘いの路線的正義性と闘いの前進、そして、「本部」反動暴力分子の破産と孤立の現実がはっきりと、事実をもって突き出されたのです。

千葉県労連青年協はたび重なる動労「本部」革マル派からの敵対・いやがらせをきっぱりとはねのけ、「4・11」に続き「12・1」においても「動労千葉とともに総評青年協集会に参加する」ことを決定し、「動労千葉に対する攻撃は千葉県労連に対する敵対である」という認識のもとに、現地・明治公園では毅然たる対応という真実をもって闘い抜き、他の多くの県評青年協傘下の青年労働者も、動労千葉に連帯して闘ったのです。

労働者・人民に堂々と闘いかけることのできる闘いを

世間に通用しない「水本」や「安定宣言」の反動的路線を廃棄し、「セクト的・暴力的機関運営」という体質を一掃し、戦闘的労働者・人民に堂々と闘いかけることのできる闘いの構築。動労大改革をいまこそなすしとげなければ、動労はますます孤立し、全国の動力車職場が三五万人体制合理化に屈服することは目に見えています。

動労千葉は第三回定期大会の圧倒的成功をかちとり「12・16三里塚現地集会」に決起し、激動の八〇年代を動労大改革へ向けて、全国の仲間の最先頭でさらに闘い抜く決意です。

全国の動労組合員のみならず。

「世間に通用する労働運動」を共に闘おうではありませんか。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!